

タイトル	平成 30 年度 教育学部入試 保健体育 推薦入試 (小論文、面接)
評価の ポイント	<p>< 推薦入試 ></p> <p>小論文問題—評価の観点</p> <p>基礎的な知識に加え、保健体育領域に関する総合的な思考力、問題発見および解決能力等を評価した。評価に当たっては、次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容性 (記述内容の正確さ、発想の豊かさ等) ・ 考察力 (考察の深さ) ・ 論理能力 (論旨の明確さ) ・ 文章表現能力 (文章表現の豊かさ、正確さ) <p>面接—評価の観点</p> <p>教育や保健体育に関する基本的知識や総合的な思考力等を評価した。評価に当たっては、次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的知識と理解度 ・ 論理性 ・ 表現力 <p>小論文 (例)</p> <p>現在の教育現場においては、学習面又は行動面において困難を示す生徒児童の割合が一定数 (数パーセント) 見られるとの報告もなされています。これは一クラスにおいて数名の合理的配慮を必要とする人が存在することを指しています。よって、今後は障害を持つ児童・生徒も含めた、多種多様な人を包括的に教育するインクルーシブ教育の充実が重要となると考えられます。その中でも、体育の授業においては様々な身体活動を伴うことから、通常教室での授業と異なる安全管理なども含めた学習内容や教具の工夫も必要となります。</p> <p>実際に、私が教師となった際に、発達障害の可能性のあると思われる児童がいるクラスの体育の授業を行う際に必要と考える合理的配慮としては、指示内容やゲームを行う際のルールの工夫などが考えられます。要点をわかりやすく示す工夫を行い、すぐ内容の再確認が出来るプリントやイラストや掲示物を用いる事などが考えられます。また、運動に苦手意識があるなど、身体を動かすことに消極的な場合には、基本的な動きを切り分けて個別に指導するなど、スモールステップで指導を行うことで、出来る楽しさを伝え、積極的に身体を動かせる環境を作ることも重要だと考えます。生徒・児童の一人一人の状態を把握し、合理的配慮に基づいた教材や教具の工夫を行いながら授業を行うことで、障害を持つ児童・生徒も含めた包括的な授業展開にもつながっていくと考えられます。(600字)</p>